

# 赤十字国際ニュース

2020年 第36号 2020年9月2日  
(通巻 第1393号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3437-0785

E-mail: [kokusai@jrc.or.jp](mailto:kokusai@jrc.or.jp) <http://www.jrc.or.jp/>

## ルワンダ 2 国間事業 救急法講習会で再開

～ボランティアの声とともに～



救急法講習会の様子。講師のガテリさんも経験豊かなルワンダ赤十字社のボランティアです。©RRCS

2019年12月、日本赤十字社（以下、日赤）はルワンダで [2 国間事業](#) を開始。しかし新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）はルワンダにも広がり、2020年3月中旬、ルワンダ政府は国境を封鎖し、国内の移動を厳しく制限していました。ボランティアと住民との直接的なやりとりが強みである赤十字にとっては、地域での活動を縮小せざるを得ず、大変厳しい期間となりました。

ようやく本事業が再開したのは、6月。7月には、ルワンダ赤十字社（以下、ルワンダ赤）がソーシャル・ディスタンスに気を付けながら、日赤との二国間事業地ギサガラ郡のボランティアに救急法講習を実施しました。本号では、一時帰国中の日赤ルワンダ現地代表部首席代表の吉田拓が、救急法講習会に参加しているボランティアとルワンダ赤現地職員に実施したインタビューの様子をお届けします。

今回のインタビューの登場人物

- ジョージアン・ウガリダさん（ジョージアン）20代女性、ボランティア
- サイモン・デオジェーンさん（サイモン）30代男性、ボランティア
- ジャン・ダマス・ヌデブウォヘさん（ダマス）50代男性、ルワンダ赤現地職員
- 吉田 拓（吉田）インタビューア、日赤ルワンダ現地代表部首席代表

## ■ 活動の担い手、ボランティアになったきっかけは

【吉田】はじめまして！ボランティアのお二人はどんな経緯から赤十字のボランティアを始められたんですか？

【サイモン】まだ高校生だった15年前、赤十字ボランティアとして、低所得者向けの住宅建設をお手伝いしたのがはじまりで、住民になった近所の方の生活が変わっていくのを見ることができて嬉しかったんです。家を持つことで誇りを持ち、気持ちが明るくなり、彼らの日ごろの振る舞いが変わっていくんですよ。より良い地域を作る取り組みに貢献できたことに喜びを感じました。

【ジョージアン】2018年に国会の選挙があり、地域の投票所で救護所のボランティアをしたのがきっかけです。見たことのないくらい沢山の人が投票所に来るのを見て、びっくりしたのを覚えています。投票待ちの間に気を失ってしまう人がいて、投票所が騒然としたときは気持ちが張り詰めました（注1）。周囲にいる人に落ち着くようお願いして、暴動にならないですみました。現地では警察とも協力していましたが、無事に選挙が終わり、自分が地域の皆さんに貢献できたことが誇らしかったです。

## ■ COVID-19の中で活動するということ

【吉田】お二人とも、貴重な経験をされたんですね！COVID-19の影響で、ソーシャル・ディスタンスに気を付けるので、今まで慣れ親しんだ活動のようにはいかなくなっているとお察しします。今、皆さんが不便に感じていること、気を付けていることはありますか？

【ダマス】これまでのように、コミュニティで集会をすることができなくなったので、バイク、3輪車や車にスピーカーを積んだ「モバイル・ラジオ」を使って、手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンスなどを啓発することに力をいれています。日赤からの支援が役だっています。



「モバイル・ラジオ」の3輪車バージョン。  
田舎道でも大活躍です。



「モバイル・ラジオ」の2輪車バージョン。  
小回りが利くので、町や市場にも乗り込めます。

【サイモン】ルワンダでは感染者が増えていて、国境封鎖や外出規制が出されていましたが、ギサガラ郡ではまだ感染者がいません（注2）。3月にルワンダ政府から外出規制が課せられたときは、抵抗感を感じたり、感情的になったりする人が多かったです。今では、ルワンダ政府の政府広報やルワンダ赤の啓発活動の成果で、そうした不満は大分減ったとは思いますが。とはいえ、これから地域の皆さんと活動を進めていくときに、予想もしていない反応があるかもしれない、と思うようにしています。

【ジョージアン】 COVID-19 のパンデミックに関わらず、家族計画や低所得者層の生活改善は、ギサガラ郡の重要な課題だと思うので力を入れていきたいです。

今回は、ボランティアと現地職員を通じ、現地の状況をお伝えしました。COVID-19 が事業を実施するうえで大きな制約になっている一方で、ルワンダ社会に根深く残っている貧困問題に立ち向かおうとしています。これからも、彼らのようなルワンダ赤のボランティアが活動の最前線に立って、貧困や災害、感染症の脅威にさらされた地域の人々を支援し、こうした脅威に負けない村づくりに取り組んでいきます。ルワンダから再度お知らせできるその日まで、読者の皆さんもおからだにはお気を付けください！

(注1)この時は 2018 年の下院議員選挙で、投票率は 93.4%と、非常に多くの国民が投票所へ出かけたと記録されています。全国的に穏やかだったとされていますが、挙の投票日は何が起こるか分からないので、当時高校生だったジョージアンさんはさぞ不安だったろうと思います。

(注2)インタビュー実施時の7月中旬の情報です。現時点(8月31日)では、ルワンダの COVID-19 の累計感染者は 4,020 名、死者 16 名、1 日の PCR 検査数は約 5,000 件で、事業地のギサガラ郡で感染者は出ていません。

### 本事業が三つ折りパンフレットになりました

日本赤十字社の新型コロナウイルスに対する活動はこちらをご覧ください。

あなたの、手となり、ぬくもりとなり。

救いを託されている。

新型コロナウイルス感染症 対応実施中

活動へのご理解よろしくお願いします。